

## 2012年3月期第2四半期決算 事業の業績（連結）

---

# 2012年3月期第2四半期 連結業績

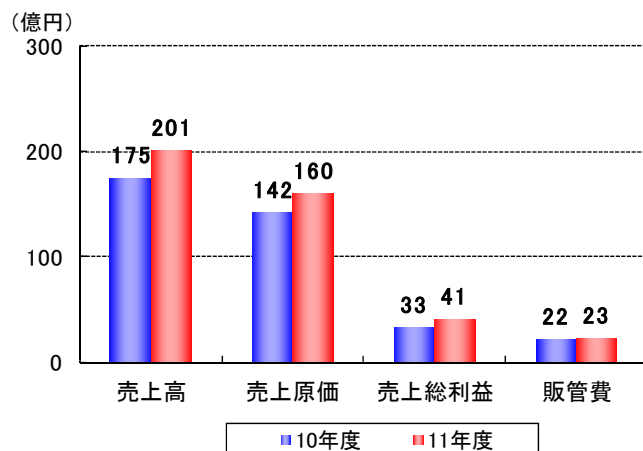
(単位：百万円)

損益	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	前年同期比
売上高	17,494	20,104	115%
売上原価	14,159	16,027	113%
売上総利益	3,335	4,077	122%
販管費	2,154	2,310	107%
営業利益	1,180	1,767	150%
経常利益	695	1,125	162%
当期純利益	346	350	101%
1株当たり 純利益 (円)	7.70	7.79	101%

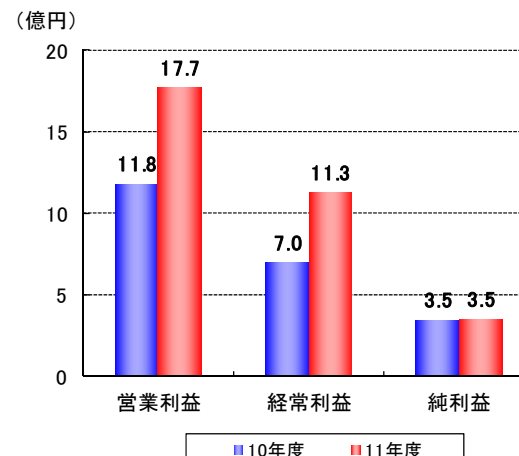
# 業績の特徴

1. 環境エンジニアリング事業が、リーマンショック後の景気後退の影響から大きく回復しました。また、リチウムイオン電池用正極材料、カラートナー用キャリア、チップコンデンサ用誘電体材料の販売も引続き大きく伸びました。その結果、売上高は前年同期比 15%増の 201億円となりました。東日本大震災の影響は若干に止まっています。
2. 生産設備の増強による減価償却費の増加とともに、景気後退により抑制していた研究開発費や雇用経費の増加がありました。原価低減活動の継続や販売管理費の伸びを前年同期比 7%増に抑えたことにより、営業利益は同 50%増の 17億6,700万円、経常利益は同 62%増の 11億2,500万円と大きく伸長しました。
3. 一方で、急激な円高による為替差損や景気低迷による投資有価証券の評価損が大きく、四半期純利益は前年同期比 1%増の 3億5,000万円に止まりました。

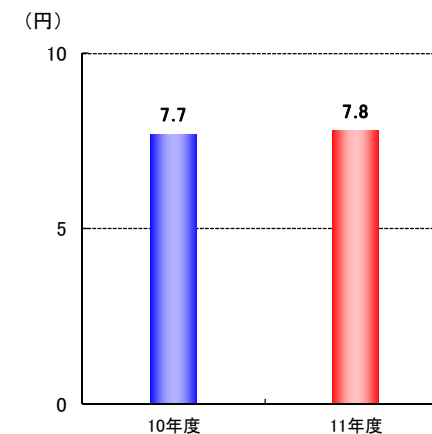
### 売上高、販管費等



### 利益



### 一株当り純利益



# 報告セグメント別売上高

(単位：百万円)

報告セグメント	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	前年同期比	包含事業
機能性顔料	6,927	7,096	102%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材	8,016	9,113	114%	電池材料、電磁環境部品/材料、磁石/磁石材料、電子印刷部品、半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング	2,550	3,894	153%	環境エンジニアリング、土壌浄化用触媒 など
合計	17,494	20,104	115%	

1. 機能性顔料の売上高は、磁気記録テープ用磁性材料が終焉期に入り減少の一途を辿っていますが、一方では新規拡販に努めているカラートナー用キャリア材料が着実に成長しており、全体では前年同期比 2%増加しました。
2. 電子素材の売上高は、EV向けのリチウムイオン電池用正極材料の本格的な立上がりとともに、超小型チップコンデンサ用誘電体材料、電波シートの販売が本格化し、前年同期比14%増加しました。
3. エンジニアリングの売上高は、リーマンショック後の遅れていた景気回復がみられ、前年同期比 53%増加しました。更に、収益性も改善し黒字転換しています。

# 2012年3月期第2四半期 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	増減
流動資産	23,514	24,589	1,075
固定資産	32,453	33,679	1,226
流動負債	21,090	26,303	5,213
固定負債	13,187	8,769	△ 4,418
少数株主持分	379	535	156
株主資本	22,217	23,273	1,056
総資産	55,968	58,268	2,300
現金/同等物	6,763	3,654	△ 3,109
キャッシュフロー	180	△ 1,118	△ 1,298
ROE (%)	3.1	3.0	△ 0.1

(注) ROEは株主資本合計に対して年換算で計算したものです。

## 貸借対照表科目の特徴

1. 資産は、リチウムイオン電池用正極材料やチップコンデンサ用誘電体材料への事業投資、並びに売上高と連動した流動資産の増加により、前年同期比23億円増加しています。
2. 負債は、固定負債から流動負債への振替はありますが、総計すると事業拡大に伴い前年同期比 7億9,500万円増加しています。
3. 株主資本は、純利益の増大により前年同期比 10億5,600万円増加しました。この結果、自己資本比率は対前年同期比 0.8ポイント改善して 38.9%となりました。
4. 先行投資に積極的に取り組んだ事によりキャッシュ・フローは、11億1,800万円のマイナスとなりましたが、ROEは前年同期並みの水準の3.0%となっています。

# 主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	
富士化水工業株式会社	2,595	3,958	△ 208	200	12月末
戸田マテリアル株式会社	3,450	4,205	185	597	3月末
戸田ピグメント株式会社	681	640	8	8	3月末
東京色材工業株式会社	1,098	942	236	198	3月末
戸田工業ヨーロッパGmbH	476	560	6	9	3月末
戸田塑磁材料(浙江)有限公司	566	613	71	53	12月末

- 【増収増益】
1. 富士化水工業株式会社は、リーマンショック後の景気後退から回復しました。
  2. 戸田マテリアル会社は、リチウムイオン電池用正極材料が、着実に成長を続けています。

- 【減益】
1. 東京色材工業株式会社は、東日本大震災の影響で生産設備が一時稼働停止となっていたため、減収減益となりました。
  2. 戸田塑磁材料(浙江)有限公司は、増収ですが、中国国内における原燃料価格の上昇により減益となりました。

## 設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	11年3月期 第2四半期	12年3月期 第2四半期	前年同期比
設備投資額	1,370	1,383	101%
研究開発費	807	1,051	130%
減価償却費	1,128	1,248	111%

1. 設備投資額は前年並みですが、内容はリチウムイオン電池用正極材料や超小型チップコンデンサ用誘電体材料への生産設備増強です。
2. 研究開発費はリーマンショック後の抑制を解除し、前年同期比30%増加させました。
3. 減価償却費は、リチウムイオン電池用正極材料生産設備の新規増設分が稼働を始めており、前年同期比11%増加しました。